

第9回和歌山県河川整備計画に係る委員会

平成21年12月21日（月）

議長

それでは、予定の議事ではありますが、次に、紀の川水系和歌山市域河川整備計画（原案）について、事務局からご説明をお願いいたします。

事務局

では、またパワーポイントを使いましてまずご説明をさせていただいた後、お手元の配付資料で若干補足説明をさせていただきたいと思っております。

まず、紀の川水系和歌山市域河川整備計画（原案）に対するパブリックコメントの実施結果です。

実施期間が10月26日から11月20日。先ほどご紹介した11月11日を挟んで26日間、県庁あるいは県の関連施設や市役所、コミュニティセンター等で閲覧をいたしまして、ここに記載しましたようなホームページや資料配付、それから報道提供等によって周知をした上でパブリックコメントをいたしました。

その結果、回答数といたしましては6件の回答がございました。その6件の意見、同じようなご意見も幾つかあったものですから、趣旨が同じものをまとめさせていただいて、今からご説明をさせていただきます。

まず、ご意見の1つ目といたしましては、河川整備の目標とする降雨量を1時間70から80mmと高くしてほしいというものです。これにつきましては、各河川の流域の状況によって計画の目標というのが違って来るわけですけれども、今回対象としていますここに挙げています河川につきましては、目標雨量、時間雨量で、おおむね70mmから90mmといった目標で整備をしていくこととしております。それがまず1点目でございます。

それから、次のご意見が、先ほど申しました鳴滝川に関するものでしたので、まず、鳴滝川についていま一度ご紹介をさせていただきます。

鳴滝川ですが、これが紀の川、紀の川の合流点から鳴滝橋の少し上流までを今整備を進めております。ご意見はその上流についてのご意見です。さっきごらんいただいたような、少し前に整備した護岸、この河道、これらに関するご意見をいただいております。

ご意見の1つ目といたしましては、河川整備が計画時の半分、先ほどご説明した鳴滝橋上流100mぐらいから下流、紀の川合流点まで、ここで打ち切られていると。これは危険箇所を放置しているので、これは上流に向けてということだと思いますが、早く整備を進めてほしいというご意見。要は、鳴滝橋から上流500m付近の川幅が狭いので早急に改修が必要だと、こういうご意見をいただいております。紀の川合流点から鳴滝橋付近まで約1.2kmございますが、これは目標の治水安全度50分の1、計画高水流量で100m³/s、この規模で河川改修を

行っておりまして、来年度工事完了予定になっております。これで整備を打ち切るということではございませんで、鳴滝橋上流約100mに落差工があるんですけども、そこから上流についてもところどころ川幅が狭くなっている、流下能力が足りないということは認識しておりますので、この整備計画では、この下流の整備が終わりましたら上流に行くと。上流で何をするかといいますと、流下能力が不足している場所で堤防の嵩上げとか、局所的な対応を早くやっていくということを考えております。これが鳴滝川の1点目です。

それから、鳴滝川の2点目、ご意見の3番になりますけれども、鳴滝橋より上流の護岸の老朽化が進んでいると。これは昭和20年代に災害のとき整備されたというものだということです。これにつきましては、状況を点検をして、必要な維持補修を実施していきたいと考えております。また、河川整備計画の中でも、河川管理施設の定期的な点検を行い、危険箇所、老朽箇所の早期発見とその補修に努め、コスト縮減を図るということをうたわせていただいておりますが、その補修という部分、「矢板護岸の補強、それから排水ポンプ施設等の長寿命化」と原案では書いておりましたけれども、このような鳴滝川の上流にある護岸の老朽化というのがここには含まれていないかのように表現がなっておりましたので、これにつきましては、そういうものが含まれているように、「等」という、赤字の部分を追加するように修文しております。

それから、次のご意見は和田川、今回の11月11日の雨でもより浸水戸数の多かった流域でございます。今、和田川は和歌川との合流点から5.5km、阪和自動車道、これまでの間の整備をするということで、前回の原案にもそういうふうにかかせていただいております。ご意見につきましては、その上流、本川の上流に流入する永山川という和歌山市が管理をしている河川、さらにそれに流入する平尾川、この河川に関するご意見でした。

なお、今回の浸水の場所としては、この和田川の、下流もそうですが、上流、中流部分、このエリアも浸水戸数が多うございましたし、上流でも浸水があったというふうに聞いております。

先ほどご紹介いただいた和田川本川がこう流れておりまして、永山川が合流しております。そこにさらに平尾川が合流しております。川の様子は、このスライドで少し見ていただければと思います。かなり流下能力としては小さい、断面としては小さい川になっております。

ご意見といたしましては、まず1点目が、早急に危険箇所を精査して、堤防の嵩上げ、護岸、河床掘削とかを行って、流下能力を向上させてほしいというのが1つです。まず、これに対しましては、この整備計画では、和歌川合流点から阪和自動車道までの5.5km、築堤、護岸整備、河床掘削などによって流下能力を高めるように河川整備を進めていくというのがございます。全体的に流下能力が不足しているものですから、下流から河川整備を進めて、流下能力を上げていくように取り組んでおります。

それから、2点目が、先ほどご紹介した永山川あるいは平尾川、この川幅が非常に狭い、集中豪雨のときには浸水被害が生じるということで、県と市が協調して抜本的な治水対策をやっしてほしいというご意見をいただいております。

これにつきましては、先ほど、全体的に流下能力が不足しているの下流から整備をしますというご説明をいたしましたけれども、ここでいうと、「ただし」以降ですけれども、上流域において浸水被害が頻発しているという状況も承知しておりますし、今回の11月11日の豪雨でも再度浸水戸数が多数出たという状況もございましたので、その上流区間につきまして、下流に影響を与えないような範囲で、下流のバランスからいって下流より流下能力を上げてしまうと、今度下流に負担が大きくなって下流の浸水を増やしてしまうこととなりますので、それに影響を与えない範囲で、ネック部の解消、局所的な改修によってネック部の解消をしていくと、こういうことを考えております。こういうことを考えているということを、また河川整備計画の中にうたっていきたいと考えております。

それから、永山川、平尾川につきましては、これは和歌山市の管理ですので、ご意見のとおり、和歌山市と連携しながら、流域全体の治水安全度を高めるような努力をしていきたいと考えております。

これが本文のところの修文ですが、このように、「また、整備区間の上流域において、浸水被害が頻発している区間については、下流区間に影響を与えないよう局所改修によりネック部の改修を行う」、こういう一文を追加しております。

それから、その他のご意見といたしまして、ご意見の⑥、⑦、⑧、⑨になりますけれども、紀の川本川に関するご意見もたくさんちょうだいいたしました。これらにつきましては、残念ながら、今回この整備計画は紀の川本川ではなくて、県が管理している支川に関する整備計画なものですから、こういうご意見があったということをきちっと国土交通省にお伝えすること、それから紀の川の早期整備をしてほしいという働きかけをしていくこと、こういうお答えをさせていただきたいと考えております。

それから、今お手元の資料－1の内容についてパワーポイントでご説明をさせていただきました。資料－2に、前のご説明した原案と今回の修正後のものとの比較表をつけております。修正した点だけご説明させていただきたいんですけれども、まず、ちょっとページ数が見にくくなって恐縮ですけれども、資料－2の6ページ目、治水の現状と課題というところで、赤字で書いてある部分、ここの修正をしております。もともと「平成13年度以降は和歌山市域ブロック内河川に大きな被害は発生していない」と書いておりましたが、21年11月11日の豪雨でこのような、先ほどご紹介したような122.5mmの雨が降って、床上・床下浸水が発生しているということを記載したいと考えております。なお、この記載内容につきましては、和歌山市の災害報告による浸水戸数が確定した段階で、その確定値を入れたいと思っております。これは今の12月1日時点の暫定値を書かせていただいております。

それが1点と、それから、10ページですけれども、(17)の鳴滝川、さっきの原案では「平成21年度に完了する」という記述をさせていただいておりましたが、工程をいろいろ見直しいたしまして、どうしても22年度にはいつてしまうということで、平成22年度完了予定ということで修文をさせていただきたいと考えております。

それから3点目が、17ページになります。これが先ほどご説明した、上流でも下流に影響を与えない範囲であればネック部の解消等はしていこうという旨をうたっております。これ、個別の川の中ではなくて、全体の中にこの文言を入れさせていただいて、それで(5)の和田川のところに、局所改修をするという旨の表示をさせていただいております。

それから、18ページ、その次のページになりますけれども、維持管理と維持という言葉が少し混乱したので、それを統一いたしましたのと、それと、先ほどの補修に関して、矢板護岸と排水ポンプの長寿命化だけではないと、「等」を入れるということをここで反映させていただいております。

前回からの修文については以上でございます。

今途中でご説明をした和田川の表現のところですが、資料-3の41ページを開いていただければと思います。図の中で一番下の右のほうですが、和田川の上流に局所改修3.2キロというのを図の中で表現しております。それから、表の中で、ちょっと字が小さくて恐縮ですが、阪和自動車道から管理区間の上流端までの局所改修という表現を入れさせていただいております。また、46ページも同様に、局所改修をやる区間について、上の平面図と右下の整備計画流量配分図の中に表記をさせていただいております。

和田川の上流部に局所改修をという話でございますが、具体的にどこをどういうふうに行っていくかということまで現段階では持っておりません。これから和歌山市とも話ししないといけないですし、地元とも話ししながら計画をまとめていって、整備をできるところからやっていきたいと思っております。

事務局からの説明は以上でございます。

議長

ありがとうございます。

前のご議論いただいた結果、それからパブリックコメントの結果、あわせて素案に修正を加えていただいて原案ということになっておりますが、これにつきまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いしたいと思います。

特別委員

すみません。単純な質問になるかと思うんですが、今コメントでご説明いただいて、いろいろご要望に応じて計画を進めていただいているところなんですが、この11日の記録的な予想外のこういう豪雨があったということを踏まえて、今、県でいろいろ予測を立てていただいている河川についての予想というんですか、いろいろ企画されている中で、少し甘いところがあるとか、ここはかなり予想外でいけるなとか、そういうようなことはどうでしょうか。精査はされていますでしょうか。

事務局

私どもとしても、予想を上回る雨だったから、だからいいんだということで終わらせるつもりはありませんで、今、特に和歌山市域で降ったものですから、和歌山市と連携してということになるんですけれども、例えば河川管理施設、川もありますしポンプもありますけれども、こういったものが今回の想定をはるかに上回る雨の中でどういうふうに機能したのか、あるいは今後さらにもう少し運用面で工夫できるところがあるのかとか、川にしましても、先ほど避難勧告、避難指示はあったのかというご質問をいただきましたけれども、例えばそういう出す態勢について、このような急激な予測しないような雨に対して我々はどういう対応をすべきか、それぞれハード面、ソフト面でできる対応がないかというのを今検討しております。和歌山市については、特に県と市の間で浸水対策の連絡会議を設けていまして、河川だけではなくて下水道と道路も一緒に入って、それで今後に生かしていくべき教訓がないか、今後どう対応していくかということ今議論しているところでございます。

また、そのために、まず今回の雨で何が起きたのかという実態をきちっとつかむということが大事だと思いますので、今の段階では、まず被害の実態把握に努めているという状況でございます。

特別委員

ありがとうございます。

今、下水道のお話も出ましたけど、和歌山市内でも、ぼんぼんとマンホールが吹き上がって飛び上がっている状況で、怖かったということも聞きました。幸い、けがをされた方はいないかと思うんですけれども、下水道の問題も出てくると思いますね。

私たちも、結果としては和田川もはん濫寸前だったと、後で聞いたんですね、それまでは家の中にいますから。先ほども、避難勧告はどうですかと。結果、水位を見るとはるかに超えていますので、ほんとうに怖いなというふうに感じましたね。ですから、皆さんとやはり市とか連携をして、その状況を見ながら安全対策をどういうふうにとっていただくかという、起こったときの安全対策と、起こる前のこういう状況になった場合の対策ということで考えていかないといけなんじゃないかなと思いました。

議長

ありがとうございます。

何もかもハードで押さえつけていくというのはやはり限界がある、いろんな面で限界がありますので、やはりこれはハードとソフトのコンビネーションで対処せざるを得ないということではないかと思えます。

ほか、いかがでしょうか。

何回かご議論をいただいておりますので、大体議論が収束してきたんじゃないかという気もしてお

りますが、さっきの和田川のことについて、場所、本来の整備計画の区間よりさらに上流側についても言及されるということになっていますよね。それは資料－３の中に書かれておって、資料－２の本文中には書かれないということになるのでしょうか。

事務局

資料－３が原案でございまして……。

議長

これは対照表ですか。

事務局

２が修正箇所の新旧対照表になっております。資料－３の中で本文と、あと、関係する図表の中でその記述を追加させていただいております。

議長

わかりました。

ほか、いかがでしょうか。何かお気づきの点がございましたら、ご指摘いただきたいと思いますが。

委員

対照表の１４ページなんですけども、(４)で底生動物というのが出てきますが、２行目に「ウミニナ」と書いてあって、「コイ科」と書いてあるんですけども……。

事務局

すみません。誤植だと思います。修正いたします。ありがとうございます。

議長

修文が間違っているんですね。

それでは、特にご意見ございませんようでしたら、原案どおり賛成いただいているということでもよろしいでしょうか。実際のいろんなことは、またいろいろ細部については地元等と十分調整を図られて進めていただきますようお願いしたいと思います。

それでは、きょう提出されました原案どおり承認するというのもよろしいでしょうか。

どうもありがとうございます。

事務局

どうもありがとうございます。

それでは、これをもちまして、2) 紀の川水系和歌山市域河川整備計画に関する審議を終了したいと思います。どうもありがとうございます。